

2023年度 メリー★ポピンズ 豊洲ルーム

事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

「人間味あふれる保育園」を目標に掲げ、子どもも大人も自己を発揮しながら自ら学びに取り組んでいける環境と「人対人コミュニケーション（スキンシップ、受容的・応答的なかかわり、地域とのつながり等）」や「センス・オブ・ワンダー（畑仕事や生き物の世話などの労働、自然の中での体験等）」を大切に取り組んできた。

中でも「人対人コミュニケーション」「センス・オブ・ワンダー」ともつながる「養護の徹底と教育の追求」に力を入れて取り組んだ。

1年を通してこだわりをもって取り組んだ教育面に関しては、日々の保育の振り返りや保育記録、スタッフ主体の園内研修（教育・養護と教育の一体的な保育・保育のアセスメント・子ども理解・私が子どもたちのために取り組んだこと）を通して、保育所における教育とはどういったことなのかをスタッフ一人ひとりが考えることができたと感じる。特に毎月の園内研修で共有し合った「私が子どもたちのために取り組んだこと」に取り組むことで、日々の保育の中に、より一層、スタッフ一人ひとりの願いや活動・環境のねらい、責任感が感じられるようになった。

子どもがやりたがっていること・育んでいこうとしているものを応援すること。子どもたちの将来・未来を見据え、こういったことにも挑戦してみたらどうかな？こういった力を身に付けてはどうかな？と提案すること。そして、必要な環境を構築すること。これらを教育と表すならば、その教育を行う者としての心構えをスタッフ一人ひとりの胸に育むことができたのではないかと感じている。

「養護の徹底と教育の追求」と共に重点として取り組んできた「日課・基本活動の実施」「にんげん力のあるチーム形成」「接遇力の向上」「地域で子育て」に関しては、以下〈1〉～〈7〉で振り返ることとする。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どものために何ができるか、何をすべきかを明確にし、取り組んでいけるようにする
	実践結果	子どもの姿を捉え、計画的に、保育者の願いをもって保育を展開するために、毎月の園会議にて「私が子どもたちのために取り組んだこと」の共有を実施した。子どもにはどのような姿が見られ、その姿から保育者自身はどのようなことを感じ、どのように関わったのか。その関わりによって子どもはどうだったか、どのように変わっていったのかを自分の言葉で他スタッフに共有することを重ねることで、日々の保育の中でもそのような視点や意識をもって保育を展開する重要性をスタッフ一人ひとりが感じることができ、心構えも築くことができた。
	次年度方向性	子どもを「どう理解し、どう関わるか」といった視点を大切に、一人ひとりの子どもにとって必要な教育を探り、提供していく。

2	計画・ねらい	発達やその子のことなど、「子どもを知る」こと、子ども理解に努める
	実践結果	園内研修にて、「012歳児の発達」「脳から子どもを捉えてみよう」「保育のアセスメント」「子ども理解」についての研修を施設長・スタッフで実施し、発達やその児を知ることで必要な関わりや教育を探っていった。結果として、子どもを肯定的に捉えることに繋がり、スタッフには子どもに対するあたたかなまなざしや子どもの学びのプロセスを大切にする姿が多く見られるようになった。
	次年度方向性	引き続き、発達等の学びを深めつつ、「子どもが求めていることは何かを見極めて関わる」「子どもたちの興味・関心、学びに沿った環境を構築する」ことに努める。
3	計画・ねらい	学ぶこと、成長することの楽しさを知る
	実践結果	スタッフ主体の園内研修をスタッフ5名が実施。施設長と一緒に決定した研修テーマに沿って、自ら学びを深め、他スタッフに共有することができた。研修実施者の実施後アンケートでは「大変だったこと」「意識したこと」「強み・弱み」「学び」についての振り返りが多く見られ、今回の取り組みを通して、自身の成長に繋がるものがあったのではないかと感じている。
	次年度方向性	全スタッフが、自ら学びたいことをテーマに園内研修を実施し、他スタッフと共に学びを深めていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもの姿や子どもの育ちを共有する
	実践結果	「3分間お迎え対応」「タイムライン」「子どもの姿の記録の掲示」「運動会」「生活発表会」を通して、子どもの姿や子どもの育ちを共有することに努めた。子ども一人ひとりの日々のエピソードの共有や発達等、専門性を活かした記録やタイムラインの共有により、共に子育てを行う者としての信頼関係を築いていけたように感じる。また、運動会や生活発表会では子ども一人ひとりの成長を共に喜び合うことができた。
	次年度方向性	「タイムライン」「子どもの姿の記録」「運動会」「生活発表会」等、それらの内容と質の向上に努めていく。
2	計画・ねらい	保育者の専門性を活かした、密なコミュニケーションに努める。
	実践結果	日々のお迎え対応時では応えきれない悩みにも向き合っていくために「お悩み相談ボックス」を設置し、相談いただいた方には面談を実施して密なコミュニケーションに努めた。発達等の専門性を活かした支援を心掛けることで、保護者が新たな視点をもって子育てに向き合うことができたのではないかと感じる。
	次年度方向性	引き続き、子どもを「どう理解し、どう関わるか」といった保育者の専門性を活かした支援に努めていく。 今年度は施設長がすべての面談を実施したため、次年度は担当スタッフが

		実施できるように保育や対人スキルの学びを深め、機会を設けていく。
3	計画・ねらい	保護者の憩いの場となる
	実践結果	スタッフ一人ひとりが接遇力の向上に努め、保護者との信頼関係の構築・居心地の良い場の構築に取り組んだ。 保護者から「帰りに子どもの話を聞くのが楽しみ」という声が聞かれたり、保護者同士が和気あいあいと会話を楽しむ場面が見られたりしたため、少なからず、そのような場になることができたのではないかと感じる。
	次年度方向性	常に相手の気持ちに寄り添い、最高に幸せとっていただけるように接し、保護者にとっても心地のよい園を目指していく。
4	計画・ねらい	日々、おもてなしの心をもって接する
	実践結果	スタッフ一人ひとりが日々の振り返りを重ね、「気持ちの良い挨拶」「待たせない対応」「美観の保たれた気持ちのよい環境づくり」に努めた。 保護者の思いや声が反映される利用者アンケートの結果は昨年度より改善された項目も多く存在したため、日々のスタッフ一人ひとりのおもてなしがよい影響を与えたのではないかと感じる。
	次年度方向性	上記 3. 保護者の憩いの場となる 次年度方向性と同様。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	ビジター利用の子どもに対する配慮の行き届いた柔軟な保育を展開する
	実践結果	まずは保育を必要としている家庭をしっかりと受け入れること、そして、各家庭のニーズに合わせて支援を行っていくことを意識した。 ビジター利用児に対しては、保護者と密に連携し、家庭での生活や生活のリズムへ配慮した保育を展開することで、子どもがマンスリー児と生活・遊びを共にしながら安心して過ごす姿が見られた。結果として多くの家庭にご利用いただくことができた。
	次年度方向性	ビジターのニーズは依然として高いので、引き続き、積極的な受入を行い、一人でも多くの子どもに必要な保育・教育を行っていけるようにする。
2	計画・ねらい	家庭のニーズに合わせた提案を行う。
	実践結果	見学・入会時に丁寧な対話を重ね、家庭のニーズに合わせたプランの提案を行ったり、家庭に必要な支援を探ったりすることに努めた。
	次年度方向性	施設長だけでなく、スタッフによる見学・入会を実施し、そういった視点や姿勢をスタッフ一人ひとりが身に付けていけるようにする。
3	計画・ねらい	地域の方々が保育園を身近に感じ、気軽に訪れることのできる園となる

	実践結果	日々の散歩での挨拶や保育園を知ってもらうための広報活動に努めた。その努力が実ってか、地域交流行事「どろんこ祭り」には、多くの地域の方々にご参加いただいた。
	次年度方向性	上記以外にも子育てサロン（育児講座・育児相談）に力を入れて取り組んだが、こちらは集客に課題が残った。そういった面では「気軽に訪れることのできる園」にはなりきれていない為、引き続きの課題とし改善に努めていく。
4	計画・ねらい	小学校や近隣保育園との交流・連携に努める
	実践結果	小学校や近隣保育園との子ども間・職員間の交流は実施できず、その難しさや課題を感じる1年となった。 そのような中ではあるが、直接的な交流・連携ではないものの、近隣小学校の評議員として施設長が年3回の学校評議会に参加し、意見交換に努めることができた。その中で、次年度からは小学校側からも交流に努めていきたいとのご意見をいただくことができた。
	次年度方向性	次年度は3歳児4歳児の在籍を見込んでいる為、小学校等と積極的に計画的に連絡を取り、子ども間・職員間の交流・連携実施に努めていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どものために「何ができるか?」「何をすべきか?」チームで子どもの最善を探っていく
	実践結果	〈1〉保育内容の充実・質の向上 1.「子どものために何ができるか、何をすべきかを明確にし、取り組んでいけるようにする」の実践結果に加え、日々の保育の振り返り、園会議での保育内容の振り返りや課題の共有、リーダー層での話し合い、担任間での話し合い等を通して、チームとなって子どもの最善を探っていくことに努めた。互いの保育観や思い、子どもの捉え方等を共有することで、様々な角度から保育を見つめ直すことができたように感じる。
	次年度方向性	引き続き、スタッフ間の対話を通して、園全体でより良い保育、その児にとって必要な保育・教育を提供できるようにしていく。
2	計画・ねらい	保育者・教育者としてスタッフ1人ひとりが自己研鑽に努める
	実践結果	スタッフ一人ひとりが目標達成のための課題への取り組み（園内研修実施・保育記録の作成・外部研修への出席・育児講座の実施等）を通して、自己研鑽に努めることができた。
	次年度方向性	今年度は施設長と共に目標設定をして課題を設けたが、次年度は自らが必要だと感じる学びに自ら取り組んでいけるようにする。
3	計画・ねらい	チームで「協働」で課題解決をする
	実践結果	リーダー間、担任間だけに限らず、園全体で課題を共有することで、スタッフ一人ひとりが「自分事」として捉え、より良い施設運営・保育内容の向上を意識することができたと感じる。しかし、自ら課題を見つけ発信し

		たり、改善に向けて自ら行動したりすることには課題が残った。
	次年度方向性	心理的安全性の高い風土と意見の違いを賞賛する文化を育み、スタッフ一人ひとりの「主体性」を引き出せるようにしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食（食材）を有効活用する
	実践結果	玉ねぎ、キャベツの芯はフードプロセッサーで細かくし、その日の主催に利用した。 食べられない部分は生ごみ処理剤でバケツコンポストにて分解した。
	次年度方向性	次年度も給食食材のカット方法の変更・皮付き調理・皮の有効活用等、継続して取り組んでいく。
2	計画・ねらい	園児・スタッフが協同で食材を加工する
	実践結果	梅シロップ作り、味噌作り、切干大根作りに取り組んだ。栄養士含め全スタッフで取り組む姿を見せることで子どもたちの興味・関心、意欲を引き出し、園時・スタッフが協同で食材を加工することができた。
	次年度方向性	次年度も子どもたちにとって必要な体験を継続して提供できるようにしていく。加工には時間を要するので、作業後に時間が経っても連続性を持たせられるように工夫していく。
3	計画・ねらい	園児・スタッフが協同で畑仕事や生き物の世話をする
	実践結果	系列園の北千住どろんこ保育園にて畑仕事・生き物の世話を実施。 畑仕事は週2回という難しさはあったが、食物の成長を写真に収めて子どもと共に前回の活動を振り返ったり、次に植える苗を買いに行ったりと工夫することで意欲的に取り組む姿が見られた。生き物の世話も畑仕事と同様に、調理で出た野菜くずをエサとして持っていくなど工夫することで、意欲的に生き物と触れ合う姿が見られた。 限られた環境の中でもスタッフ間でアイディアを出し合うことで、子どもにより良い体験の場を提供することができたのではないかと感じる。
	次年度方向性	今年度の畑仕事は「収穫」に課題が残ったため、2歳児担当スタッフを中心に計画的に畑仕事に取り組み、「収穫し食べる」ところまで実施できるようにしていく。

〈6〉『養護』の徹底と『教育』の追求

1	計画・ねらい	子どもにとって安心・安全な保育者になる
	実践結果	2022年度の重要施策でもあった『養護』は012歳児にとって特に重要なものであり、教育を行っていく中でも切っても切れないものである為、改めてスタッフ一人ひとりがその意味と重要性を理解したうえで、保育を展

		開できるようにした。 園内研修ではスタッフが「アタッチメント」「養護と教育の一体的な保育」について研修を行い、学びを深めた。 エピソードを用いて子どもとの関わり方や子どもの見守り方を探ったり、自身のこれまでを振り返ったりすることで、実際の保育の中でも子どもと意識して関わる姿が見られるようになった。
	次年度方向性	「泣いている」「抱っこを求めている」その裏側にはどのような心情があるのか等、子どもの欲求を『的確に』満たした応答的なかかわりと子どもの気持ちを受容した共感的なかかわりを行えるようにする。
2	計画・ねらい	子どもを肯定的に捉える力を養う
	実践結果	子どもには、自分から育っていこう、今の自分を超えていこうという本性があること、子どもはいかなる時も善くなろうとしていることを念頭に、子どもをよく（善く）観察すること・よく（善く）捉えることに努めた。 園内研修では「012歳児の保育で大切なこと」「脳から子どもを捉えてみよう」を実施し、発達の理解と子どもの見守り方を深めていった。 「あぶない」「やめて」「ダメ」「こうして」「ああして」と言葉を掛けたり、行動を制御したりしてしまいそうな時も、一旦、子どもたちをよく（善く）観察してみることで、グッと堪えて観察してみることで、その時に保育者が目にする子どもの姿は以前とは異なっていたのではないかと感じる。
	次年度方向性	引き続き、子どもを肯定的に捉え、そのうえで、子どもが求めていることは何かを見極めて関わりをもてるようにしていく。
3	計画・ねらい	子どもの「やりたい！」を引き出す環境を構築する
	実践結果	日々の保育の振り返りや園内研修「教育ってなあに？」「保育のアセスメント」「子ども理解」を通して、子どもの「やりたい！」を引き出す環境（物的環境・人的環境）構築に努めた。 少しずつではあるが、子どもの姿や願いから活動や環境を考えることができるようになり、より計画的な保育が展開できるようになってきたと感じる。
	次年度方向性	引き続き、日々の保育の計画と振り返りを重ね、その児にとっての必要な環境を構築していけるようにする。今年度は物的環境の構築に課題が残ったため、次年度は研修を行い、学びを深めながらスタッフ主体で子どもの姿に合わせて環境の見直しを行っていけるようにしていく。
4	計画・ねらい	日課・基本保育活動にこだわりをもって取り組む
	実践結果	登園～散歩出発までの流れや活動、時間の使い方等を全スタッフで話し合ったり、限られた環境の中での畑仕事や生き物の世話をよりよくしていくためにどのような工夫ができるかを考えたりする時間を設けることで、年間を通してこだわりを持って取り組むことができた。
	次年度方向性	日課・基本活動中の子どもの姿を捉え、その児に必要な関わりや子どもに育っている力、何につながる活動なのかを全スタッフが考えながら活動を展開していけるようにする。

〈7〉 接遇

1	計画・ねらい	子ども、保護者、スタッフ、地域、園に携わるすべての人に『思いやり』の心をもって接する
	実践結果	コンピテンシーチェック、人権チェック、毎月の接遇振り返り通して、相手の立場に立つことを意識して取り組んできた。接遇に関しては毎月目標（意識すること）を掲げて取り組み、その振り返りを他スタッフと共有することで園全体の学びとなった。 そのような意識や姿勢が利用者アンケートにも反映される形でよい結果へとつながった。
	次年度方向性	本来、「思いやり」や「接遇」は目標を掲げて取り組むものではなく、その人の心から湧き出てくるものだと思う為、自然とそのように振舞えるような職場環境であったり、人間性であったりを育ていけるようにしていく。
2	計画・ねらい	誰が見ても気持ちのよい清掃と整理整頓を行う
	実践結果	「園に携わるすべての人が心地よく過ごせるように」を全スタッフで意識しながら取り組んだ。毎月の接遇目標で清掃・整理整頓を掲げるスタッフも多く、年間を通して整った環境を維持することができたのではないかと感じる。次の人のこと・他の人のことを考えるとといった点もよい影響を与えた。
	次年度方向性	誰に言われなくとも自らの意思で取り組んでいけるようにする。
3	計画・ねらい	園の中から善意・親切をつないでいく
	実践結果	園全体で、人にしてもらった親切をその人に返すのではなく、また別の人に繋げていけるように意識して取り組んだ。また、次の人のことを考えて行動できるようにした。そうした姿勢が伝播し、相乗効果となって、少しずつ、頼り合える・助け合えるチームに変化してきたのではないかと感じる。
	次年度方向性	全スタッフが引き続き上記のような意識・姿勢をもって取り組み、そういった雰囲気が家庭・地域に繋がっていくようにする。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	41人	55人	77人	16人	2人	0人	191人

年度後半： 10~3月	42人	60人	75人	3人	0人	0人	180人
----------------	-----	-----	-----	----	----	----	------

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	25人	37人	45人	33人	40人	48人	90人	67人	63人	55人	56人	56人	615人
うち0 歳児	7人	14人	20人	10人	16人	20人	32人	32人	28人	22人	32人	32人	265人

(解説) 基本時間 8時00分～18時00分 延長保育時間 7時00分～20時00分

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	21人	22人	25人	27人	27人	29人	32人	34人	35人	37人	39人	39人	367人
うち0 歳児	4人	4人	5人	5人	5人	6人	9人	10人	11人	13人	14人	14人	100人

(解説) 引き続き、利用回数で見ると0歳児の利用が多数。

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	7人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	0人
------------	-----	----	-----	----	-----	----	------	----

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・人権チェック ・虐待防止研修 ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	食育振り返り・献立の振り返り・離乳食の共有・子どもの様子
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿の分析
ケース会議	12回	対象園児なしの為、子どもの姿の特記事項共有の場として活用

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	チェックリストを用いての衛生点検・保育室の環境整備に努めた。都度中心となって、掃除チェックリストの見直し・改善を行い、園の清潔維持に努めた。
安全対策係	ヒヤリハットやインシデント、事故記録の共有・分析を行い、事故防止、再発防止に努めた。また、系列園の事故報告の傾向を探り、対策を練ることで自園の事故防止へとつなげた。

防火管理者	毎月避難訓練を実施し、災害時（地震・火災・水害）の保育者間の連携を深めた。また、昼礼や園会議にて振り返りを実施し、災害時の対応への理解を深めた。
食品衛生管理係	調理・調乳など調理施設の衛生管理を行い、安全な食事を提供できるように努めた。また、全スタッフに向けて研修を実施した。
畑係	畑仕事の年間計画をスタッフに周知し、計画的に活動できるように努めた。また、子どもと共に、栽培物の管理に努めた。
生き物係	生き物の世話（餌やり）や水槽の清掃などを子どもと共にやり、子どもの興味・関心を引き出した。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	集客に力を入れたこともあり、多くの地域の方にご参加いただきました。家庭同士のつながりの場になることができた。
ちきんえっぐ係	地域子育て支援の内容企画立案やちきんえっぐだよりの作成に努めた。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な行動や欲求に適切に応え、特定の大人との情緒的な絆の形成に努めた。 ・「子どもは何を求めているのか」子どもとの距離感を大切にしながら見守り、子どもが集中して探索活動を楽しみ、様々な感覚を養っていけるように努めた。 ・子どもの発達や日々の姿から子ども理解に努め、その時々に必要な関わりを深めることで、子どもの意欲を引き出せるようにした。 ・まずは子どもを受け止める・受け入れることで、少しずつ子どもが他者の気持ちに気が付いていけるように努めた。
保育参加	4～3月まで 合計0名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計4名 が参加済み (3月1日時点)

運営委員会	運営委員会を6月23日と11月24日にメリー★ポピンズ 豊洲ルームにて実施し、参加した保護者それぞれ2名 詳細は議事録に記載
-------	---

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食を通して、興味・探求心を育む
	実践結果	クッキング（バター作り・おにぎり作り・味噌作り・だしの飲み比べ等）や米研ぎ、下期からはスタッフ含め全員で食卓を囲むことを通して、興味・探求心を育むことができた。
	次年度方向性	上記の内容を引き続き計画性をもって取り組んでいく。また、全スタッフが一つひとつにしっかりとねらいをもって取り組んでいけるようにする。
2	計画・ねらい	「自分でできることを自分でする」力を育む
	実践結果	0歳児は家庭との連携を密に取りながら個々の発達や欲求に応じた食事の提供に努めることができた。 2歳児以降はバイキングに取り組み、「自分でできることを自分でする」力を育むことができた。子どもの意欲に応じて無理なく取り組めるようにすることで、その子なりのペースで力を育てていけたのではないかと感じる。
	次年度方向性	「自分でできることを自分でする」力を継続して育ていけるように環境を整える。 1歳児の取り組みが課題として残ったため、1歳児もタイミングを見ながらバイキングに参加できるようにしていく。
3	計画・ねらい	食材・食の循環を認知する直接体験の提供
	実践結果	命をいただく活動（魚の解体）や食材を加工する活動を提供することができた。年齢的に食材・食の循環の認知は難しいとはいえ、体験を通して様々な感覚や気持ちの変化を感じることができたのではないかと感じる。 畑仕事には課題が残ったため、限られた環境でもしっかりと取り組んでいけるように計画していく。
	次年度方向性	畑仕事（苗植え～収穫～コンポスト）の一連の流れを体験できるように計画を立て、工夫しながら取り組んでいく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月15日／11月16日に実施
歯科検診	実施なし
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月、12月に保育室にて手洗い指導を実施 ② 6月、1月に保育室にて歯磨き指導を実施
流行した感染症	1月にインフルエンザA型、園児10名感染報告有り 1月26日に終息
発作・痙攣等の対応	ダイアップ使用なし その他、救急車要請なし
エピペン使用できるスタッフの状況	本日時点で、在籍スタッフ8名のうち、8名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	AED 設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日

	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月15日、11月16日 歯科健診 実施なし
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが夢中になって遊びこめる環境（物的環境・人的環境）を構築する
	実践結果	日々の子どもの姿の振り返りや園内研修を通して環境構築に努めた。人的環境に関してはスタッフ一人ひとりの意識が見て取れたが、物的環境に関しては施設長が主導で構築することがほとんどとなり課題が残った。 子どもが夢中で遊び込める要素の1つでもある安心・安全は、スタッフの存在によって保障できたのではないかと感じる。
	次年度方向性	子どものモノとの関わりを深く捉え、子どもの興味・関心、学びに沿った物的環境を構築できるようにする。
2	計画・ねらい	保育者との安定した関係の下、様々なことに子ども自らがチャレンジできるようにする
	実践結果	子どもの様々な行動や欲求に適切に応えることで、子どもが保育者を安全の基地として行動範囲を広げていき、様々なことにチャレンジする姿が見られた。 保育者の関わりによって子どもがチャレンジできるように支援することはできたが、チャレンジしたくなるような環境を提供することは課題として残った。
	次年度方向性	引き続き、子どもと安定した関係を築いていけるように努めながら、子どもにとって魅力的な学びの環境を構築していけるようにする。
3	計画・ねらい	他児との関わりや自ら行動する中での様々な葛藤、Error に出会えるようにする
	実践結果	園内研修を通して、先回りしない保育者の関わりや「見守る」について学びを深めた。子どもにとって必要な体験はどのようなものか、葛藤や

		Error の中で、子どもにはどのような力が育っているのかといった視点を大切に取り組んでいけるようにした。 集団・異年齢で活動する中で自分の思い通りにいかないことや友達とのトラブルなど、様々な葛藤、Error に出会えることができたのではないかと感じる。
	次年度方向性	引き続き、上記の視点や姿勢を大切に、さらに、葛藤、Error 時にはその児にどのように関わるべきなのかを深めていけるようにする。そして、保育者の関わりによって、子どもはどのように変化していったのかを捉えていけるようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具の設置なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	月1回の避難訓練実施と実施後の振り返りを行うことで、災害時に各スタッフが落ち着いて行動できるように努めた。
2	実践結果	年2回の不審者侵入訓練を実施し、施設の特徴を理解したうえでの最善の対応方法を探った。
3	実践結果	4月・7月・10月・1月の事故防止チェックを基に、子どもが安心・安全に過ごせる環境の見直しと構築を行った。
4	実践結果	4月・7月・10月・1月に設備点検チェックを実施し、安全に努め、破損や問題のある箇所が見つかった際は、早急に対応した。
5	実践結果	事故防止委員会にて自園のヒヤリハットやインシデントに関して共有、分析を行い、事故防止につなげた。また、事故が起きた際は、都度、緊急事故防止委員会を開催し、再発防止に努めた。
6	実践結果	タイマーを用いた5分おきの4点チェックを確実に実施し、睡眠時の安全に努めた。
7	実践結果	東京都環境局による「光化学スモッグ注意報等のメール送信」の登録を行い、発令・解除の緊急時情報を取得し、対策を講じた。
8	実践結果	施設長が午前中の散歩に同行し、公園や散歩ルート of 危険個所の確認や子どもの見失いの防止等に努めた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

次世代育成の観点、スタッフ育成の観点から積極的な受入を行った。

全スタッフで温かい雰囲気と丁寧な受け答えや指導を心掛け、まずは保育を「楽しい」と感じてもら

えるように努めた。そのうえで、仕事に対する姿勢やコミュニケーションなど、社会人として働く者のマナーや責任も伝えていけるように努めた。

中高生、スタッフ、双方にとってとても貴重な学びの機会になったのではないかと感じる。

〈2〉 実習生の受入

受入なし

〈3〉 中高生の受入

日程	学校名	人数
8月9日～10日	蒲田高等学校	1人
8月9日～10日	貞静学園高等学校	1人
8月9日～10日	都立板橋高等学校	1人
8月21日～24日	香蘭女学校高等科	2人
2月8日～9日	東京都立第三商業高等学校	3人
11月20日～22日	江東区深川第五中学校	3人

7. スタッフ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	21日 10名	19日 9名	16日 9名	21日 9名	18日 9名	15日 9名	20日 9名	17日 8名	15日 9名	19日 8名	16日 8名	15日 8名
保育の質向上 研修	21日 10名	19日 9名	16日 9名	21日 9名	18日 9名	15日 9名	20日 9名	17日 8名	15日 9名	19日 8名	—	—
虐待防止研修	21日 10名	—	—	—	—	—	20日 9名	—	—	—	—	—

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
12月16～17日	どろんこ会グループ	東京都保育士等キャリアアップ研修（保護者支援・子育て支援）	1名	無
1月5～6日	どろんこ会グループ	東京都保育士等キャリアアップ研修（乳児保育）	1名	無
1月12～13日	どろんこ会グループ	東京都保育士等キャリアアップ研修（乳児保育）	1名	無
2月16～17日	どろんこ会グループ	東京都保育士等キャリアアップ研修（保護者支援・子育て支援）	1名	無
12月15日	公益財団法人総合健康推進財団	東京都保育士等キャリアアップ研修（食育・アレルギー対応）	1名	無
1月15日	公益財団法人総合健康推進財団	東京都保育士等キャリアアップ研修（幼児教育）	1名	無
2月6日	公益財団法人総合健康推進財団	東京都保育士等キャリアアップ研修	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 0名	20日 1名	21日 0名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	参加なし											
デモンクインターンシップ	参加なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育

成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

散歩（戸外活動）や商店街ツアー等を通して、地域の方々との関わりややり取りの機会を設けることができた。日々活動をしている広場の管理人さんに交渉の末、広場に実った柑橘系の食物を収穫する体験ができたことはとてもよい一例だと感じている（収穫後、それをういて足湯を実施）。戸外活動時に挨拶を重ね、存在を知ってもらい、やり取りをすることで、地域の中での直接的な体験の機会を設けられたのだと思う。

一方で、近隣保育園や近隣小学校、近隣高等学校との子ども間交流の機会を設けることができなかった為、次年度の課題とし、改善を図っていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：豊洲3丁目公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：交番、八百屋、消防署、IHI、花屋、警備員室、肉屋、豊洲駅、魚屋、パン屋、クリーニング屋等
世代間交流	予定日にウイルス性胃腸炎流行の為、実施なし
異年齢交流	都立第三商業高校 試験等により日程の調整がつかず、実施なし
その他活動	2月17日に芝浦工業大学 シバウラキッズパークにて育児講座を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

1.2024年度の概要～年度の基本方針を受けて～〈3〉地域の子育て支援事業 4.「小学校や近隣保育園との交流・連携に努める」の実践結果、次年度に向けての記載内容と同様。

〈2〉具体的な連携

対象児なし、連携なし

10. 要支援児

今年度、対象児なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
19名	17名	10名	74名	27名	23名	25名	19名	10名	16名	名	名	名

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 にて実施
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行
子育てサロ ン	毎月第2土曜日 10:00～11:00 にて実施

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年9月15日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時00分

自己評価終了時刻：14時00分

自己評価実施者：施設長、0歳児担当、1歳児担当、2歳児担当、栄養士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：83.3%

(省察) 昨年度に比べ、全体のスコアが向上し、概ねよい結果であったと感じている。今年度力を入れて取り組んできた「接遇」も少なからずよい影響を与えたのではないかと思う。

そのような中ではあるが、結果から3つの課題が見えてきた。①スタッフ間コミュニケーション、②

対保護者コミュニケーションの中身・話の内容、③伝える力・伝える方法である。
伝達・共有方法の構築、スタッフの学びの場・成長の場の提供、スタッフによる見学対応・語り合う
園会議の実施等を通じて、次年度も引き続き改善に取り組、より良い施設運営に繋げていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって
寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図
る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ 豊洲ルーム 施設長 石原 幸太